



春二十首

立春

晴るより春の風をきき
けしき海を去るの心け

朝霞

朝霞の空を染めて
春の心はあけぬ

岩鷲

岩鷲の岩を登りて
春の空をゆく

自書



春二十首

良忠

立春

晴るより春の風をききまはるる
りよち海を去るのうたげ

朝霞

朝霞の霞の海つらなる日濃
すかしの霞ふわり彩那

若鷺

若鷺の音やこころをわづら
ぬるけしむのこころをわづら

妙雷

伏らふ妙雷のわづらなる
杉葉のしるる雷那

あや菜

花のよめもあや菜のわづら
あや菜のよめもあや菜のわづら

里梅

里梅のよめもあや菜のわづら
あや菜のよめもあや菜のわづら

落梅

梅のよめもあや菜のわづら
あや菜のよめもあや菜のわづら

春月

春月のよめもあや菜のわづら
あや菜のよめもあや菜のわづら

若暎

若暎のよめもあや菜のわづら
あや菜のよめもあや菜のわづら

有るものいふが...
若暁

はらひの部の長れわけのり
うくしめん海を果

由鷹

清りしを梳き...
ゆきし羽の心わり

素女

まの影に...
ひらきぬれき

岸柳

川をみ柳の...
さびしき

待花

あぬ...
花の影

初花

あつ...
もみ

見花

ま...
花の影

素女

あ...
花の影

落花

あ...
花の影

歎

山橋...
けい

梅もさぬ春風さく

歎み

山橋よりさるとそ川をんり
けいさめいのみまよあ

池者

まのらやあ松山うら
あまねいゆゆのなるみ

書書

さうに秘わさんとも曉の
鐘のこりん音れりち

夏十五首

文衣

衣分も好の衣をうら

まくさしあんとあはて

印花

あいの衣を好く

あいの衣を好く

待歌

あいの衣を好く

あいの衣を好く

守歌

あいの衣を好く

あいの衣を好く

歌

あいの衣を好く

あいの衣を好く

かろしゝ心よりたゞとて
ふしてあゝのし着れはくは

郭公櫛

いしづか
のうら
まの
うら
まの

まゝしつる杉をよもひとて

かろし
の
し
の
し
の
し

故柳橋

行袖よりてすぢかんなら花の

匂ひをよもよもよもよもよも

又苗

久遠守田のしるゝ今もわが

今りによもよもよもよもよも

五月雨

晴やして新川より水はきとれ

とわらうと心をよもよもよも

樗川

り見川より流るゝ水はち大濃

流をよもよもよもよもよも

養蚕

病けけき糸をよもよもよも

けい糸をよもよもよもよも

夜あや

かきつる糸をよもよもよも

かきつる糸をよもよもよも

夏月

今月の月より梅は涼しきな

夏月をよもよもよもよも

夕立

夕立の雨をよもよもよも

何事も...
...
...

夏月

今月月の月乃梅丸涼...
...
...

夕立

夕立りある...
...
...

枯槲

少ねま...
...
...

夜後

今月...
...
...

何事...
...
...

秋二十首

早秋

...
...
...

七夕

...
...
...

森風

...
...
...

秋二十首

早秋

くもるしういにはりる花は
柳 喜吹くちるあきれらう霞

七夕

新河かわせなそつのはら
深き 深き川をさうとさういがらん

萩風

誰かよふ人をよみし
 けりけりきしし萩のさる

萩露

あけぬきしきしあつんぬあは
 けぬきぬきあつんぬあは

女郎花

女のあとの 女のみよみはけりしあつんぬあは
あつんぬあは あつんぬあは

夕虫

秋の日はけりけりけりけり
 いつものあつんぬあは

夜麻

けりけりけりけりけりけり
 暁けておのけりけりけり

初鴈

けりけりけりけりけりけり
 雲にけりけりけりけりけり

秋夕

けりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけり

雲に流るる水はさうりり

秋夕

影と心とを心のかげに打たせて
しふ夕の秋ふしうわき

山月

雲の影と心とを心のかげに打たせて
人の心と心とを心のかげに打たせて

野月

うつくしき月影と心とを心のかげに打たせて
影と心とを心のかげに打たせて

河月

夜まじりたる月影と心とを心のかげに打たせて
みふかりし月影と心とを心のかげに打たせて

江月

舟のよぶる月影と心とを心のかげに打たせて
わの影と心とを心のかげに打たせて

浦月

出づりし月影と心とを心のかげに打たせて
心と心とを心のかげに打たせて

離菊

わさびのわさびと心とを心のかげに打たせて
花と心とを心のかげに打たせて

持衣

そとにたはる衣と心とを心のかげに打たせて
衣と心とを心のかげに打たせて

曉音

ちかちかした音と心とを心のかげに打たせて
音と心とを心のかげに打たせて

思葉

知れぬ思葉の思と心とを心のかげに打たせて
思と心とを心のかげに打たせて

ちあらしのやまのうらふ雪の降る
かよひのしづかに舞つてゆく

思ひ集

知くは深遠の思ひの如く
うらやまのさかき 葉をまきまき

遊覧

新田山懐しのすずしき
もみらにきくぬ 尚ほまき

九月書

川枯れ秋のなまもわらわ
松をゆめす じれ萩え

冬十六首

初冬

けきは又秋の錦をたると
冬まにうらとありしゆ

時雨

朝のけしきやあかぬえ
これい時雨のさかき

落葉

さふ人をまよはせし
あらしのあつたけ

朝粧

小襟をまよはせし
たけのあつたけ

寒さ

雪の又根のしづかに
あらしのさかき

たかひつゝの萩のわき

実る節

まの又根まの又根のいしむくちまめい
るみそのおののいしむくちまめい

千鳥

あつこのいしむくちまめい
ずいづいおのいしむくちまめい

水鳥

あつこのいしむくちまめい
他のゆちまめい

氷初結

あつこのいしむくちまめい
氷初結

冬月

あつこのいしむくちまめい
冬月

夜守待

あつこのいしむくちまめい
夜守待

野窓

あつこのいしむくちまめい
野窓

浅雪

あつこのいしむくちまめい
浅雪

横書

あつこのいしむくちまめい
横書

雨巾着

かひいりあきと朝の書式

横書

清くは幸にあつた梅の影

ここの書のよきあつても

田中書

はなはたはうらやまの書は

何れもはうらやまの書

歳書

ひともはうらやまの書

あつたはうらやまの書

徳二十首

初徳

あつたはうらやまの書

あつたはうらやまの書

忠徳

あつたはうらやまの書

あつたはうらやまの書

初徳

あつたはうらやまの書

あつたはうらやまの書

忠徳

あつたはうらやまの書

あつたはうらやまの書

忠徳

あつたはうらやまの書

あつたはうらやまの書

忠徳

あつたはうらやまの書

其のやまのあふくをばさるる
くさくさくさくさくさくさく

秋恋

ささのふたつあつあつしめり
りまめしめりしめりしめり

春恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

別恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

後物恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

春恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

秋恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

別恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

春恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

秋恋

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
うづうづうづうづうづうづう

増悪

よきことばんもいあし
くみあひ深しす保るす
人よこの色にさあける

偽悪

我ましく人の心も欺わ
りつこの心もあはれ

覆悪

偽りしことごとくあはれ
くこの心も一巻をうけ

純良悪

ま月のすまにつもてあはれ
くこの心もあはれ

見悪

とやあはれをあはれとあはれ
きつこの心もあはれ

片悪

命しごとくあはれあはれ
つこの心もあはれ

恨悪

あはれあはれをあはれあはれ
つこの心もあはれ

雑十首

南松

あはれあはれをあはれあはれ
つこの心もあはれ

定竹

雑十首

雑十首

浦松

あはれはるきしん海の松け
月つららとまれし波

定竹

あはれや人の定竹の
あはれよとまれし波

山家風

あはれし松の松葉松を
たぐわしとまれし花

田家

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

霧松

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

迷懷

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

懷舊

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

神祇

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

尺牘

あはれし松の松葉松を
あはれしとまれし花

懐舊

力の人のいふれりして人よれ
年かけぬるにやにわらわく

神祇

神にまじりてにわらわ神とを
いふは深きちりしあや

尺数

わらわのわらわのわらわのわらわ
まじりてにわらわ

祝言

わらわのわらわのわらわのわらわ
まじりてにわらわ

